



			<p>れる。今後もこの方針を間違えることのないように、教職員一同、肝に命じて、日々の保育活動に従事していきたい。</p> <p>また、「毎月のおたより」「学期の行事予定」等によって本園の保育の取り組みをわかりやすく、なおかつ詳しくお伝えしていきたい。</p>	
2	<p>情報の発信と受信</p>	<p>・保育者との対話、連絡などコミュニケーションを図り、問題が生じたときはクラスに関係なく全職員で対応するなど安心して預けられる環境をつくっているか。</p> <p>・保護者への連絡、保護者からの伝達などミスや遅れがないよう確実に、提出物の処理、事務処理をスムーズに行う。</p>	<p>保護者 担任以外の保育者から声をかけられたり、対応してもらって安心できた。</p> <p>園児数増加により、保育者と会話の回数が減ったように思われる。</p> <p>教師 日々の子どもの様子は連絡帳を通して、又、学期ごとの懇談会や「ホームルームだより」等によって、担任は保護者と密接に連絡を取り合っている姿が一定、評価されていると思われる。</p> <p>今後も保護者のあらゆる願いに応えられるよう、努力していきたい。</p>	<p>A</p> <p>A</p>
3	<p>指導計画の作成と評価</p>	<p>・個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っているか。</p> <p>・業務がより効率的にできるよう係活動行事、環境構成など余裕を持って計画し、能率よく機敏に作業を進めることができているか。</p>	<p>保護者 行事など、連携が図られ、スムーズな進行ができていた。</p> <p>教師 常に子ども視点で一つひとつの行事を考え、取り組んだことにより、子ども、保護者、保育者ともに満足 of いくものとなった。</p>	<p>A</p> <p>A</p>
4	<p>教職員同士の協力・連携</p>	<p>・保育者間の連携を十分に図り、保育の在り方を考え、教材研究、実践研究、新任教員への指導などに努めているか。</p> <p>・幼児のことについて常に保育者間で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有しているか。</p>	<p>保護者 保育者間の連携はよく図られていた。</p> <p>教師 毎日の振り返りや、ミーティング、園内研修等で、格差のない保育を心掛けていきたい。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
	<p>教育環境の構成 幼児のみとりと理解</p>	<p>・全保育者が即座に生かせる感性、保育技術を高め、子どもたちが楽しく生活したり、学んだり、育ちあったりできるあたたかい環境をつ</p>	<p>保護者 3・4・5歳児の縦割りクラス編成により、助けあったり、教えあったり、育ちあう姿が見られた。</p>	<p>A</p>

5		<p>くり、人とかかわる力が育つような配慮をしているか。</p> <p>・幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めているか。</p>	<p>教師</p> <p>保護者のみなさんからは一定、信頼されているように受け取られる。保育者はどのような場合にも子どもと向き合うときは、1対1の関係を保つように努力をすべきであり、これを常に心に留め、日々の保育に努めたい。</p>	A
6	<p>地域との連携 子育て支援</p>	<p>・小学校との連携交流、園外の施設との交流などにより、人の温かさや、心配り、大きくなることの意味を感じる活動に取り組んでいたか。</p> <p>* 預かり保育</p> <p>・本園の教育方針に従った保育を行っているながらも、縦割り保育のよさを生かし、家庭的な雰囲気づくりに努めることができているか。</p> <p>・手作りおやつを増やし、楽しいおやつの時間を持っているか。</p>	<p>保護者</p> <p>園外に出かけることにより、いろいろな立場の人と出会い、社会ができていくこと学べる機会を増やしてほしい。特別支援教育、地域支援教育を前年度より多くとることが出来ていた。</p> <p>教師</p> <p>私立幼稚園としての本園の在り方は、広範囲の地域から通園する保護者にとっては、見えにくくなっているものと思われる。カトリック教会所属の幼稚園としての存在価値を今後も高めるよう努力していきたい。</p> <p>今年度は、地域の奈良市女性防災クラブの方が来園し、紙芝居を通して防災指導をしていただいた。</p> <p>このような地域とのかかわりを増やしていきたい。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
7	<p>安全への配慮 安全管理体制の整備</p>	<p>・火災、自然災害に対する訓練、安全指導などを繰り返し行い、とっさの判断で教師と子どもが連携して身を守れるようにしていく。</p> <p>・緊急時の対応手順について、全教職員が共通の理解を持てるよう取り組んでいるか。</p>	<p>保護者</p> <p>いろいろな想定で訓練していることを、家庭でも話題にしている。危険を回避する行動を少しずつとれるようになってきた。</p> <p>教師</p> <p>今後も緊急時のマニュアルについて、保護者にその徹底をはかり、子どもの安全確保に更に努めていきたい。</p>	<p>B</p> <p>B</p>

## 今後重点的に取り組むべき課題

### 教育内容に関して

- \* カトリック教育、モンテッソーリ教育、縦割り保育の三本を軸とする保育の充実
- \* 教諭のキャリアアップを図り、保育の質の向上
- \* モンテッソーリ教育の園内研修の充実
- \* 子どもの生活、自主選択活動の充実
- \* 行事の見直し
- \* 地域との連携 地域に密着した保育

## 関係者評価

- \* 自己評価の結果について、内容はほぼ適切である。
- \* 保護者の方からでた評価を真摯に受け止め、次期の保育に活かしていくことが望まれる。
- \* これからは教育の質の高さがより強く求められる。教職員は子どもとかかわることに満足せず、幼稚園の三年間で子どもがどう変わってきたのかを観ていく力、評価していくちからをつけることが重要である。
- \* これからの幼稚園は確固とした自園のビジョンを持ち、地域とつながりながら、学びのコミュニケーションを形成し、学び続ける園であることが必要である。
- \* そのため教師同士が語り合い、学び合う研修が必須である。
- \* 学校運営に関しても、来年度も健全に行えるようにしていく。
- \* 園内行事等、連携がよく図られており、園児、保護者、幼稚園の三者が一体となって取り組んでいる姿がよく見られた。
- \* 今年度から、地域の防災クラブの方が子どもたちに直接指導をしていただける幾何に恵まれたことはとてもよかった。
- \* 地域支援を今年度はたくさん受け、充実した保育が出来た。
- \* 本園の教育の柱としているモンテッソーリ教育を子どもが自ら考え、行動している姿を保育参観から多く感じる事ができた。
- \* 学校関係者評価委員として園内作品展を参観して、もっと地域の方々にも公開していくことで、本園の教育にご理解いただけるのではないだろうかと思った。
- \* 商店街で行われる七夕まつり、ひな祭のお茶会など、地域の季節の行事に積極的に参加をしていく。
- \* 園内お泊り保育の時に、地域の八百屋、風呂屋を利用させてもらい地域との関係を深めていく。
- \* 防災グッズを購入しただけで満足してはいけない。使い方を職員間で練習を繰り返し行うことが大切である。
- \* 消防訓練等で、地震、火災等の避難の仕方、命の守り方の訓練をすることは最も大切だが、「引き渡し訓練」等、保護者の方も参加していただき、共にしていくことも大事である。この引き渡しは、保育教諭にとっても災害時を想定してやっておくべきである。
- \* 子ども園に移行し今まで以上に教職員間での連絡、保護者との連携を密にし、これまで大切にしてきたことをしっかりとしていくことが何よりも大事である。

## 総合的な評価結果

2019年5月28日（火）に開催された学校関係者評議会でおおむね達成と評価された。